



第2章

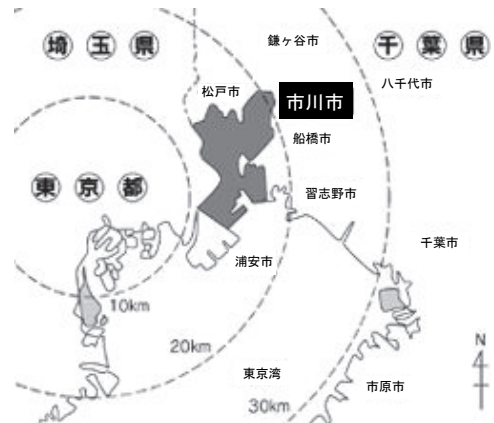
市川市の現状

1 人口等の状況

(1) 市川市の地域性

市川市は、千葉県の西部、江戸川を隔てて東京都と相対しています。都心から20kmの圏内に位置し、文教・住宅都市として発展してきました。都心部と県内各地域を結ぶ広域交通網の集中する位置にあり、東西方向はJR総武線、京葉線などの鉄道や京葉道路、国道14号などの道路があります。

北部には梨栽培などの農業が盛んで屋敷林などの緑も多く、また学園も多い文教・住宅都市です。南部は、東京湾に臨み京葉工業地帯の一翼を担っているとともに、都会的な住宅都市が形成されています。

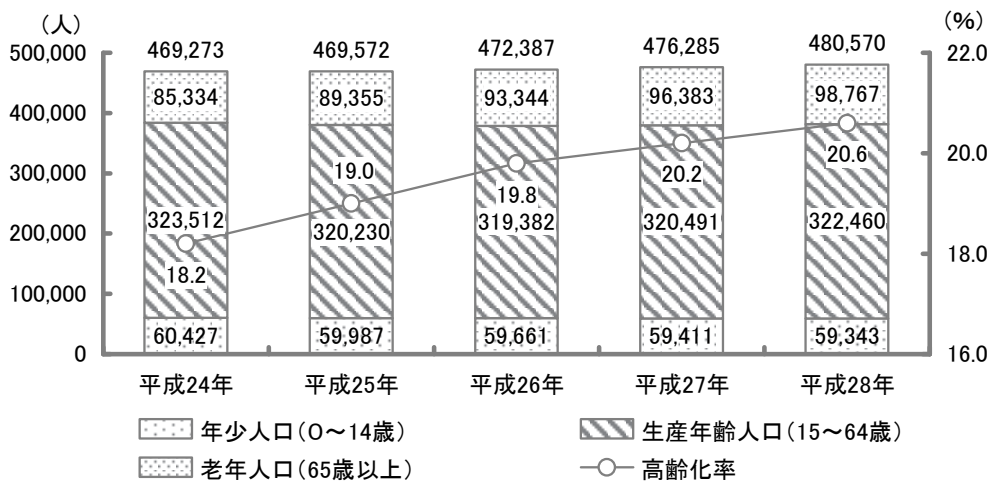


(2) 人口の動向

①人口及び高齢化率の推移

人口をみると、平成24年以降増加しており、平成28年で480,570人となっています。年齢区分で見ると、老年人口（65歳以上）は増加している一方、年少人口（0～14歳）は減少しており、高齢化率は平成28年で20.6%となっています。

人口及び高齢化率の推移

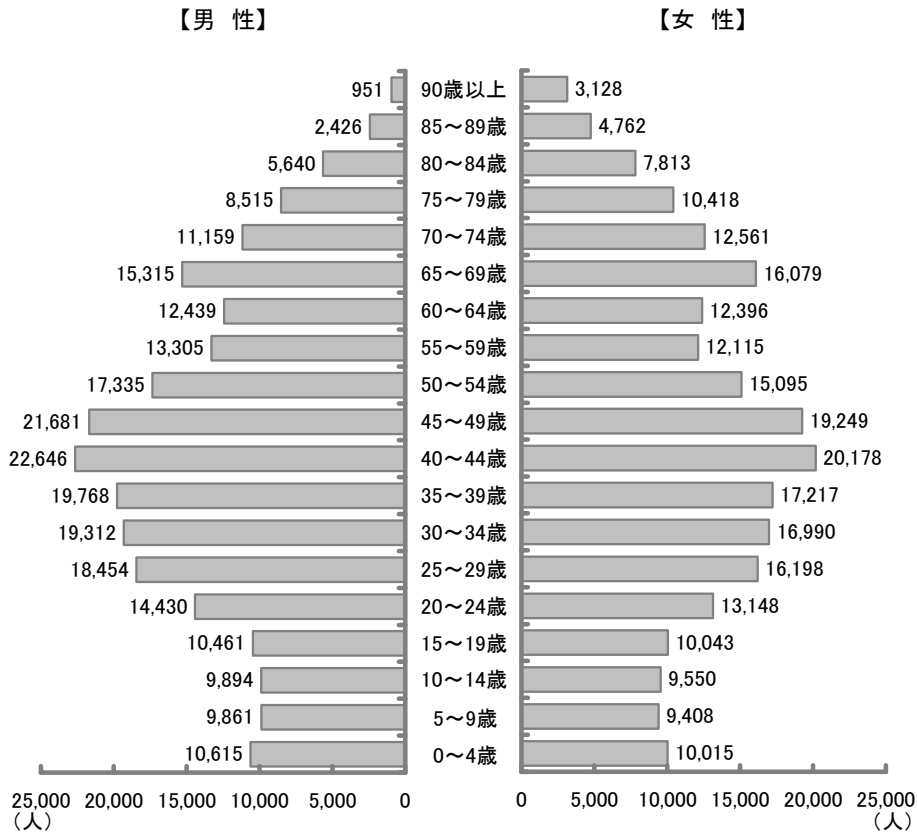


資料：人口動態調査（各年9月末現在）

②人口ピラミッド

人口ピラミッドをみると、男女ともに40～44歳が最も多くなっています。また、60歳以降で女性が男性より多くなっています。

人口及び高齢化率の推移



資料：人口動態調査（平成28年9月末現在）

2 スポーツ施設等の状況

(1) スポーツ施設の整備状況

① 公共スポーツ施設数

市内の公共スポーツ施設の整備状況は以下のようになっています。市川市スポーツセンター、塩浜市民体育館といった複合スポーツ施設の他、野球場、体育館、屋外プールなどの公共スポーツ施設を整備しています。

公共スポーツ施設数（令和元年度現在）

【スポーツ施設】

名称		用途
市川市スポーツセンター（国府台公園）		
1	国府台公園陸上競技場	陸上競技 サッカー ラグビー
2	国府台公園野球場	野球
3	国府台公園テニスコート	硬式・軟式テニス
4	国府台市民体育館	
	第1体育館（メイン）	室内スポーツ各種
	第2体育館（サブ）	室内スポーツ各種
	柔道場	柔道 太極拳 健康体操 他
	剣道場	剣道 空手道 体操 他
	トレーニング室	体力・筋力トレーニング （個人）
5	信篤市民体育館	
	体育館	室内スポーツ各種
	トレーニング室	体力・筋力トレーニング （個人）
	ゲートボール場	ゲートボール
6	塩浜市民体育館	
	第1体育館（メイン）	室内スポーツ各種
	第2体育館（サブ）	室内スポーツ各種
	第1武道場・第2武道場	柔道 剣道 空手道 他
	相撲場	相撲
	トレーニング室	体力・筋力トレーニング （個人）
	テニスコート	硬式・軟式テニス
7	福栄スポーツ広場	
	野球場	軟式野球 ソフトボール
	テニスコート	硬式・軟式テニス
	ゲートボール場	ゲートボール
8	青葉少年スポーツ広場	少年野球、フットサル、 グラウンドゴルフ、ゲートボールなど
9	J：COM 北市川スポーツパーク （北市川運動公園） テニスコート	硬式・軟式テニス

【運動広場】

名称	用途
1 妙典少年広場	少年野球
2 柏井少年広場	少年野球
3 北方少年広場	少年野球
4 田尻第2少年広場	女子フット 多目的
5 大野4丁目少年広場	少年野球 女子フット

【公園内等運動施設】

名称		用途
1	江戸川河川敷緑地公園野球場 （1号）	軟式野球
2	江戸川河川敷緑地公園野球場 （2号）	軟式野球
3	江戸川河川敷緑地公園野球場 （3号）	軟式野球
4	江戸川河川敷緑地公園野球場 （4号）	軟式野球
5	江戸川河川敷緑地公園野球場 （5号）	軟式野球
6	江戸川河川敷緑地公園野球場 （6号）	少年野球
7	江戸川河川敷緑地公園野球場 （7号）	少年野球
8	江戸川河川敷緑地公園野球場 （9号）	少年野球
9	江戸川河川敷緑地公園野球場 （10号）	少年野球
10	江戸川河川敷緑地公園野球場 （11号）	少年野球
11	江戸川河川敷緑地公園野球場 （12号）	軟式野球
12	江戸川河川敷緑地公園野球場 （13号）	軟式野球
13	江戸川河川敷緑地公園サッカー 場	サッカー
14	塩浜1号公園野球場	軟式野球 少年野球
15	原木東浜公園ソフトボール場	ソフトボール 少年野球
16	原木公園ソフトボール場	ソフトボール 少年野球
17	国分川調節池緑地多目的広場	サッカー、ラグビー、グラ ウンドゴルフ、ゲートボ ール、フットベース、軟式野 球など

【その他施設】

名称	用途
1 市川市市民プール	レジャープール
2 北方多目的広場	ラグビー等
3 市民キャンプ場	キャンプ等
4 妙典少年野球場	少年野球
5 市川大野高等学園野球場	少年野球

②公共スポーツ施設の築年数

本市のスポーツ施設は全般的に老朽化が進み、特に市川市スポーツセンター、市川市市民プールでは、一般的な法定耐用年数を超過しており、耐震化工事や施設・設備修繕により、安全性の向上等を図っております。

主要なスポーツ施設の築年数（平成 28 年現在）

名称	種別	築年数	耐用年数の目安（※）	耐用年数の超過
市川市スポーツセンター	陸上競技場	63 年	スタンド：30～45 年 競技スペース：30 年	○
	野球場	66 年	30 年	○
	体育館	43 年	30～50 年	○
市川市市民プール	屋外プール	34 年	30 年	○
信篤市民体育館	体育館	31 年	30～50 年	
塩浜市民体育館	体育館	28 年	30～50 年	
福栄スポーツ広場	野球場、テニス	23 年	30 年	
いちかわ市民キャンプ場	キャンプ場	29 年	—	

※耐用年数は耐用年数省令（財務省）を参照

体育館（SRC 造、RC 造）47 年、スタンド 45 年

体育館（S 造）34 年、スタンド 30 年

※耐用年数については、「公共施設等総合管理計画の個別計画」との整合を図ります。

(2) 公共スポーツ施設の利用状況

公共スポーツ施設の利用状況は、体育館やトレーニング室などを中心に増加傾向にあります。

公共スポーツ施設の利用状況の推移

単位：人

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
国府台スポーツセンター					
第1体育館	63,166	63,211	63,704	67,938	66,127
第2体育館	22,445	24,204	26,675	26,386	26,192
柔道場	16,985	17,392	14,415	13,212	11,746
剣道場	20,310	20,748	18,817	22,416	20,173
トレーニング室	20,465	21,407	25,227	28,868	30,089
野球場	20,912	19,781	18,554	17,339	19,266
陸上競技場	39,612	45,263	47,062	50,206	61,307
テニスコート	47,585	46,339	46,572	52,394	44,939
中国分スポーツ広場	27,362	28,000	26,379	25,399	25,610
塩浜市民体育館					
第1体育館	81,548	83,071	81,777	83,190	85,856
第2体育館	15,630	13,549	14,738	14,901	14,974
第1武道場	22,058	17,003	17,941	14,084	14,531
第2武道場	32,336	29,945	26,979	25,795	19,476
相撲場	1,120	1,400	1,387	654	1,539
トレーニング室	31,965	34,448	36,369	39,847	36,448
ジョギングコース	269	88	80	13	2
テニスコート	2,902	4,433	4,188	4,400	3,073
青葉少年スポーツ広場	11,825	12,042	14,175	13,697	14,759
福栄スポーツ広場					
野球場	19,452	17,269	18,855	21,190	29,175
テニスコート	39,692	39,967	45,644	43,481	46,269
ゲートボール場	11,956	11,837	19,367	22,649	20,714
まちかど健康サロン	7,849	8,192	8,377	8,658	8,845
信篤市民体育館					
体育館	29,099	26,798	26,457	27,950	26,763
トレーニング室	9,395	13,481	15,293	16,433	13,658

(3) スポーツ教室開催状況

本市では、市民全般、高齢者、小中学生などを対象に、様々なスポーツイベントや教室が実施されています。

平成 28 年度は、以下のような市民スポーツ教室、健康スポーツ教室を実施しました。

平成 28 年度 市民スポーツ教室（定期教室）

種目	対象	場所	合計
ソフトテニス	小学生以上	市川市スポーツセンター	13 回
テニス	小学生	市川市スポーツセンター	14 回
卓球	小学生以上	国分小学校	18 回
陸上競技	小学 5 年生～、中高生	市川市スポーツセンター	14 回
ハンドボール	小学生	昭和学院アクティブコート	24 回
バスケットボール	小学生以上	富貴島小学校	15 回
バスケットボール	小学生・中学生	大和田小学校	19 回
インディアカ	小学生～	妙典小学校	10 回
バドミントン	小学生～	幸小学校	22 回
バドミントン	年長園児（保護者同伴）～	信篤小学校	23 回
バレーボール	小学生・中学生	市川市スポーツセンター	9 回
バレーボール	小学生・中学生	行徳小学校	17 回
アーチェリー	小学生（身長 130 cm 以上）～	曾谷公民館	38 回
合気道	6 歳～	第一中学校	9 回
フェンシング	小学生～	市川小学校	34 回
剣道	小学生（面付者）	市川市スポーツセンター	24 回
弓道	小学 4 年生～	曾谷公民館	11 回
ラグビーフットボール	3 歳～15 歳	北方多目的広場 市川市スポーツセンター	12 回
ソフトボール	小学 4 年生～	原木公園ソフトボール場	25 回

平成 28 年度 健康スポーツ教室

種目	概要	場所	合計
ボディコンディショニング教室	姿勢、骨配列、筋肉を意識したりセットと筋トレを行います。	信篤市民体育館	15 回
初級者のエアロビクスダンス教室	初心者、初級者対応の比較的軽い有酸素運動を行います。音楽とステップ等の組み合わせで楽しみながら心肺機能を保持・向上させることができます。	信篤市民体育館	
初心者のヨガ教室	初めての方、体力に自信のない方も全身をしっかり動かしながらヨガのポーズを行うことで、ヨガの効果を体感できます。	信篤市民体育館	15 回
ヨガ教室	身体や心にたまったコリを丁寧にほぐしていきます。基本的な呼吸法・ポーズをゆっくりバランス良く行っていきます。	信篤市民体育館	
初級者のエアロビクスダンス教室	初心者、中高年齢の方を対象に、ステップ等の組み合わせで、比較的軽い有酸素運動により心肺機能を向上させます。	塩浜市民体育館	15 回
ストレッチ教室	ゆっくりと身体をほぐしたり伸ばして、関節可動域の改善や筋力も鍛えます。	塩浜市民体育館	
ボディメイクエクササイズ教室	骨盤を滑らかに動かすことで全身の代謝を高め、間接に負担をかけないよう筋肉をつけます。	塩浜市民体育館	15 回
ベーシックマットピラティス教室	マットの上で行う体幹トレーニングでバランスの取れた筋力と柔軟性をつくれます。	塩浜市民体育館	
骨・コツストレッチ教室	骨の動きを意識した「ナンバの動き」を用いたストレッチとダンスを行います。	塩浜市民体育館	15 回
リズム体操教室	音楽に合わせてリズムを取りながら、楽しく身体を動かし、足腰の筋力、腹背筋をつけ、体幹を高める基礎体操です。	塩浜市民体育館	
アクアビクス教室	水の抵抗を使って運動することにより、健康や体力を向上させます。	市川市市民プール	8 回

3 アンケート調査結果からみえる現状

(1) 調査概要

①調査の目的

市川市スポーツ振興基本計画の見直しにあたって、社会情勢や環境の変化、市民のスポーツに関する意識や要望の多様化に対応し、市民の意見などを十分に反映させた計画を策定するために行うものです。

②調査対象

本市在住の18歳以上を無作為抽出

③調査期間

平成28年8月3日から平成28年8月22日

④調査方法

郵送による配布・回収

⑤回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
3,000 通	911 通	30.4%

⑥調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。

※調査結果の全容は、参考資料をご参照ください。（47頁以降）

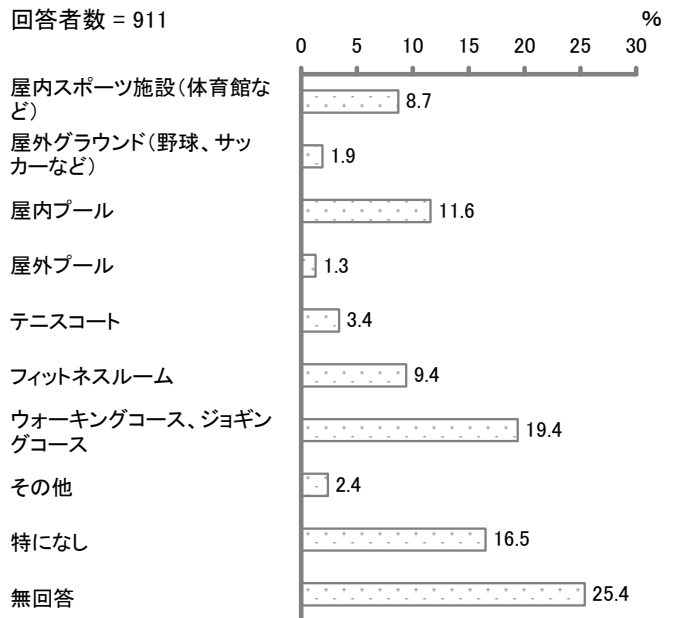
(2) スポーツをする空間・場所の確保、充実

① 今後充実してほしいスポーツ施設

今後充実してほしいスポーツ施設

今後充実してほしいスポーツ施設は、「ウォーキングコース、ジョギングコース」の割合が19.4%と最も高く、身近でウォーキングやジョギングなどができる場の充実が求められています。

回答者数 = 911



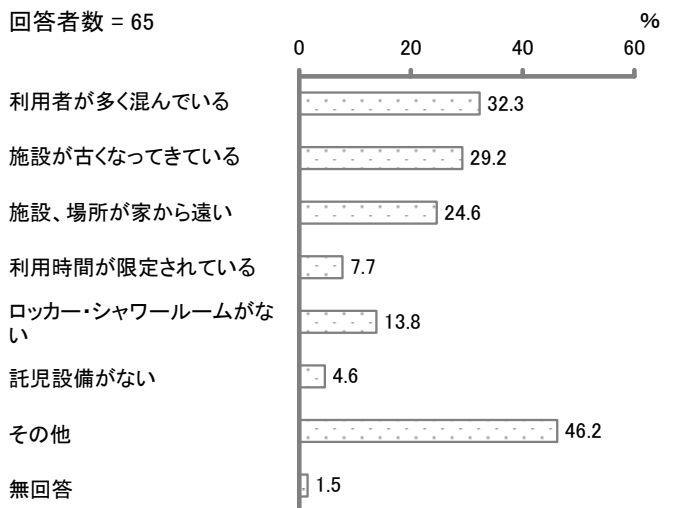
② スポーツ施設に満足していない理由

スポーツ施設に満足していない理由

スポーツ施設に満足していない理由は、「利用者が多く混んでいる」の割合が32.3%と最も高く、次いで「施設が古くなってきている」の割合が29.2%、「施設、場所が家から遠い」の割合が24.6%となっています。

市内のスポーツ施設については、スポーツをする場の充実が求められます。

回答者数 = 65



③ 運動・スポーツの実施場所

運動・スポーツの実施場所

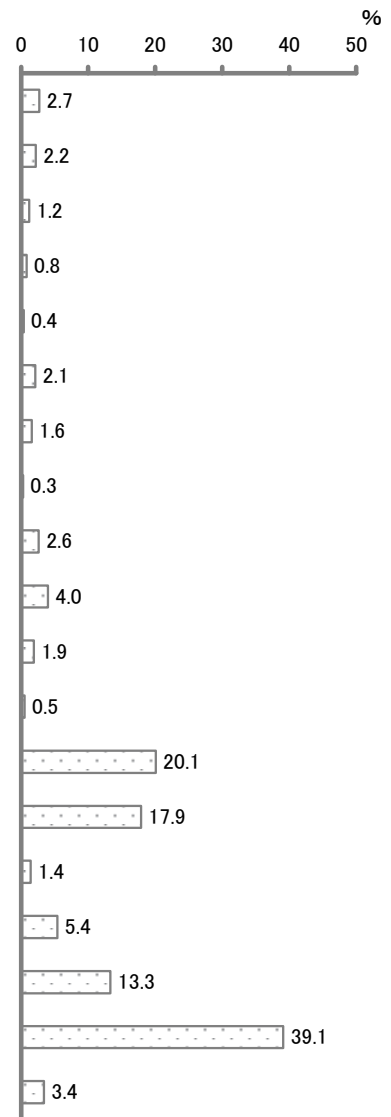
運動・スポーツの実施場所は、「特になし」を除くと、「自宅の近くの河川敷、公園・空き地」の割合が 20.1%と最も高く、次いで「民間のスポーツクラブ」の割合が 17.9%となっています。

運動・スポーツをしている市民の多くは、公園・空き地や民間のスポーツ施設を利用しており、身近で気軽にスポーツ活動ができる場を確保することで、市民のスポーツ実施率の向上につながることが期待できます。

また、民間のスポーツクラブについては、連携・活用を検討していく必要があります。

回答者数 = 911

国府台市民体育館	2.7
塩浜市民体育館	2.2
信篤市民体育館	1.2
国府台陸上競技場	0.8
江戸川河川敷球技場	0.4
市民プール	2.1
福栄スポーツ広場	1.6
中国分スポーツ広場	0.3
テニスコート	2.6
公民館	4.0
小学校	1.9
中学校	0.5
自宅の近くの河川敷、公園・空き地	20.1
民間のスポーツクラブ	17.9
職場のスポーツ施設	1.4
市外の公共スポーツ施設	5.4
その他	13.3
特になし	39.1
無回答	3.4



(3) スポーツ団体・クラブの育成

① 総合型地域スポーツクラブの認知度

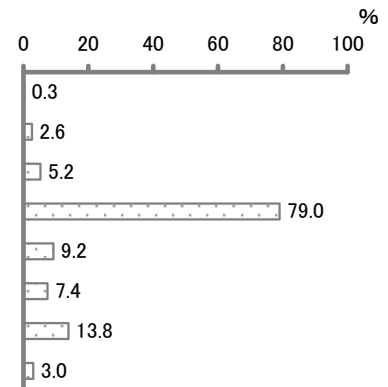
総合型地域スポーツクラブの認知度

総合型地域スポーツクラブの認知度は、「知らない」の割合が79.0%と最も高く、次いで「興味がない」の割合が13.8%となっています。

まだまだ市民の総合型地域スポーツクラブの認知度は低く、更なる周知が必要です。

回答者数 = 911

既に参加している
知っている
聞いたことがある
知らない
興味がある
どちらともいえない
興味がない
無回答



② スポーツ活動団体への所属希望

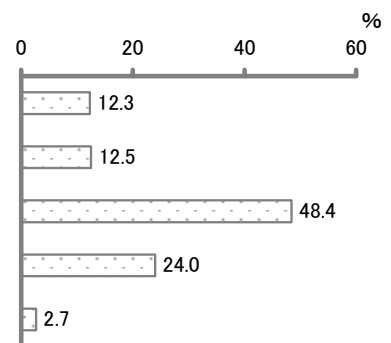
スポーツ活動団体への所属希望

スポーツ活動団体への所属希望は、「現在も今後も所属するつもりはない」の割合が48.4%と最も高いものの、一方で「所属していないが今後所属したい」の割合が12.5%となっています。

活動団体の周知や所属意向を高めるなど、所属につながる働きかけを進めていくことが重要です。

回答者数 = 911

所属している
所属していないが今後所属したい
現在も今後も所属するつもりはない
わからない
無回答



(4) スポーツを支える人材の育成・確保

① 市川市公認スポーツ指導者制度の認知度

市川市公認スポーツ指導者制度の認知度

市川市公認スポーツ指導者制度の認知度は、「知らない」の割合が87.5%と、知っている市民は1割未満となっており、認知度を高めるために一層の周知を図ることが必要です。

回答者数 = 911

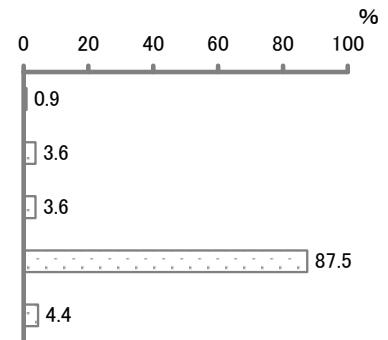
顔や名前を知っている公認スポーツ指導者がいる

知っている

名前を聞いたことがある

知らない

無回答



② 市川市スポーツ推進委員の認知度

市川市スポーツ推進委員の認知度

市川市スポーツ推進委員の認知度は、「知らない」の割合が84.1%と知っている市民は1割未満となっており、市川市公認スポーツ指導者制度とともに認知度を高めるために一層の周知を図ることが必要です。

回答者数 = 911

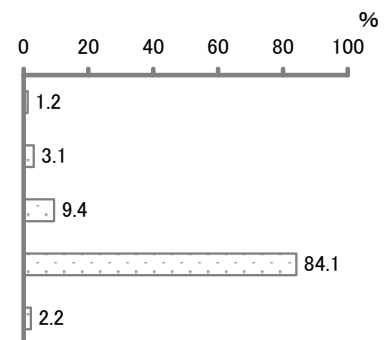
顔や名前を知っている委員がいる

知っている

名前を聞いたことがある

知らない

無回答



③ スポーツ施設への指導者の配置

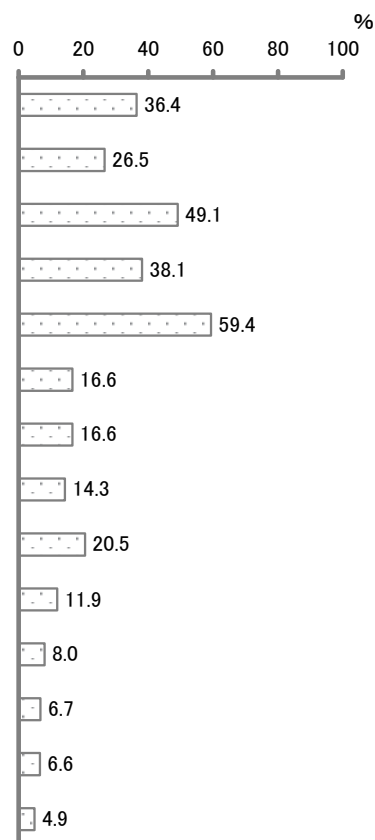
スポーツ施設にとって重要なこと

スポーツ施設にとって重要なことは、「施設のきれいさ」の割合が59.4%と最も高く、次いで「ロッカー・シャワールームの充実」の割合が49.1%、「冷暖房設備の充実」の割合が38.1%となっており、備品や屋内設備などの施設環境の充実を求める声が多くなっています。

また、指導者の配置の充実を求める声もあり、こうしたニーズに responding していくため、ハード面とソフト面の両方から施設機能の向上を図ることが求められます。

回答者数 = 911

競技スペースの広さ	36.4
指導者の配置	26.5
ロッカー・シャワールームの充実	49.1
冷暖房設備の充実	38.1
施設のきれいさ	59.4
健康やスポーツに関する情報の充実	16.6
雑談や休息ができる	16.6
喫茶・レストランコーナー	14.3
スポーツ教室やイベントの充実	20.5
観覧できるスペース	11.9
託児設備	8.0
特になし	6.7
その他	6.6
無回答	4.9



(5) スポーツ機会の創出

① 運動・スポーツを実施したい頻度

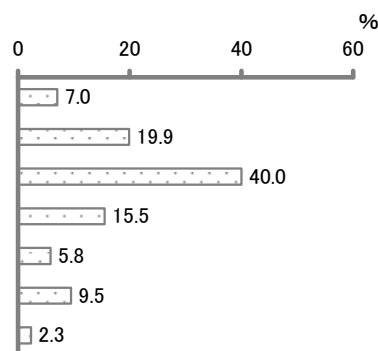
運動・スポーツを実施したい頻度

市民の運動・スポーツを実施したい頻度は、「週に1、2回」の割合が40.0%と最も高く、次いで「週に3回以上」の割合が19.9%、「月に1～3回」の割合が15.5%、「年に数回」の割合が5.8%、「ほとんどしたくない」の割合が9.5%、「無回答」の割合が2.3%となっています。

週1回以上スポーツを実施している方が36.5%との調査結果(参考資料47頁参照)に対して、実施したいと考えている市民が66.9%と、潜在的なスポーツニーズがうかがえ、実施につなげていくことが重要です。

回答者数 = 911

ほぼ毎日
週に3回以上
週に1、2回
月に1～3回
年に数回
ほとんどしたくない
無回答



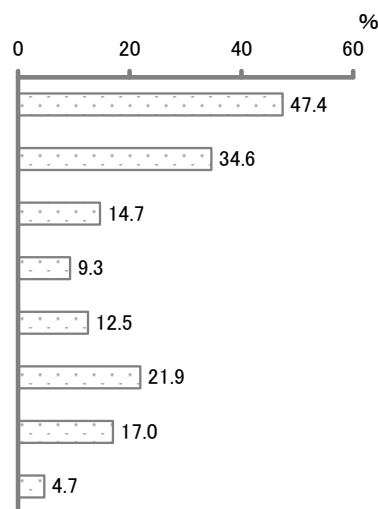
② 運動・スポーツにほとんど参加しない理由

運動・スポーツにほとんど参加しない理由

運動・スポーツにほとんど参加しない理由は、「仕事や家事、勉強等が忙しく時間が無いから」の割合が47.4%と最も高く、次いで「参加するきっかけがないから」の割合が34.6%、「運動が嫌い・苦手だから」の割合が21.9%となっており、市民のスポーツ実施率を高めるためには参加するきっかけをいかに作っていくかが重要となります。

回答者数 = 407

仕事や家事、勉強等が忙しく時間が無いから
参加するきっかけがないから
一緒に参加する仲間がいないから
運動できる場所がないから
活動組織に入りにくいから
運動が嫌い・苦手だから
その他
無回答



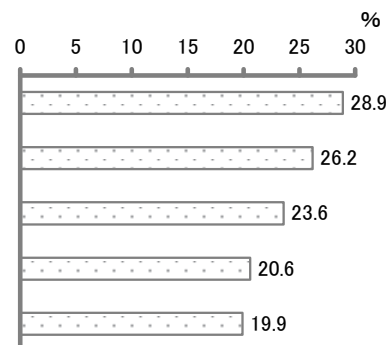
③ 今後行いたい運動・スポーツ

今後行いたい運動・スポーツ（上位5項目）

今後行いたい運動・スポーツは、「ウォーキング」の割合が28.9%と最も高く、次いで「筋力トレーニング」の割合が26.2%、「水泳」の割合が23.6%となっており、気軽にできるウォーキングのニーズの高さがうかがえます。

回答者数 = 911

ウォーキング
筋力トレーニング
水泳
ヨガ
ストレッチ



④ 今後のスポーツ行政に求めること

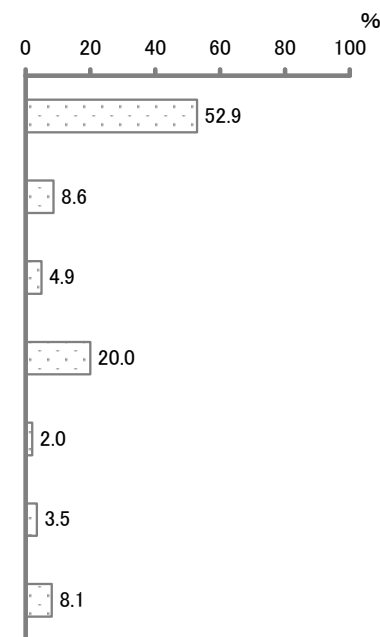
今後のスポーツ行政に求めること

今後のスポーツ行政に求めることは、「身近に利用できる施設の整備やスポーツのできる場所の充実・有効活用を図る」の割合が52.9%と最も高く、次いで「年齢や趣向など様々な方を対象としたイベントや教室を実施する」の割合が20.0%となっており、行政の役割としては、特にスポーツのできる場所の整備や確保が期待されていることがうかがえます。

回答者数 = 911

身近に利用できる施設の整備やスポーツのできる場所の充実・有効活用を図る
気軽に参加できるスポーツ団体・クラブの育成・活性化を図る
スポーツの指導や教室・イベントの運営・管理を行う人材の確保・育成を図る
年齢や趣向など様々な方を対象としたイベントや教室を実施する
スポーツに関する情報の充実や相談できる体制などの構築を進める
スポーツ競技力を強化するため、選手や指導者の育成・関連団体の連携を図る

無回答



(6) スポーツ情報の収集・提供

① 市主催のスポーツ教室やスポーツイベントの認知度

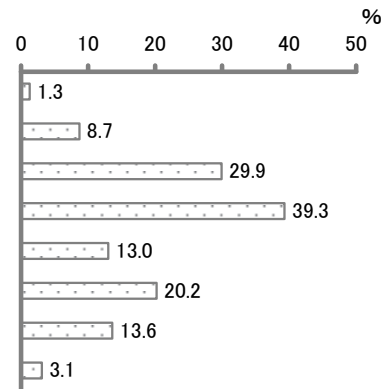
市主催のスポーツ教室やスポーツイベントの認知度

市主催のスポーツ教室やスポーツイベントの認知度は、「それらの情報を知らない」の割合が39.3%と最も高く、次いで「参加したことがない」の割合が29.9%、「興味がない」の割合が20.2%となっています。

スポーツ教室やスポーツイベントが市民に十分に知られていない現状がうかがえ、更なる周知や情報発信の充実が必要です。

回答者数 = 911

よく参加している
 参加したことがある
 参加したことがない
 それらの情報を知らない
 もっと情報を知りたい
 興味がない
 今後、参加してみたい
 無回答



② スポーツや健康づくりについて相談したいこと

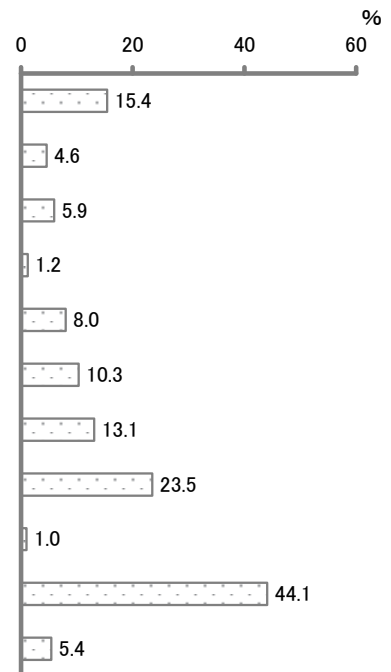
スポーツや健康づくりについて相談したいこと

スポーツや健康づくりについて相談したいことは、「特に相談したいことはない」を除くと、「健康のために効果的な運動方法」の割合が23.5%と最も高く、次いで「スポーツ活動ができる場所」の割合が15.4%となっています。

スポーツや健康づくりに関する相談への市民のニーズがうかがえ、こうした相談体制の充実を図っていくことも求められます。

回答者数 = 911

スポーツ活動ができる場所
 スポーツに関する情報
 スポーツをはじめるきっかけ
 スポーツ指導者に関する情報
 スポーツ後の体のケアの方法
 健康づくり活動を行っている場所
 健康づくりに関する情報
 健康のために効果的な運動方法
 その他
 特に相談したいことはない
 無回答



4 市川市のスポーツにおける課題

課題1 スポーツをする空間・場所の確保、充実

(1) 公共スポーツ施設の整備

本市では、野球場、サッカー場、テニスコート、体育館など、様々なスポーツ施設を整備していますが、全般的に老朽化が進んでおり、市民から再整備などの声があがっています。

また、市民アンケート調査の結果では、市の公共スポーツ施設に満足していない理由は「利用者が多く混んでいる」、「施設が古くなってきている」、「施設、場所が家から遠い」が多くを占めており、身近な施設で体を動かし、気軽にスポーツを楽しめるよう、身近な空間や場所の有効活用、交通アクセスの利便性の向上や施設的环境美化など、今後もスポーツ施設の充実が求められます。

一方、今後の人口減少などの社会情勢の中では、将来的な施設の適正な保有量も限られることから、既存施設の利用環境の改善や身近な空間や場所の有効活用等を図り、効果的に施設の充実を進めていく必要があります。

(2) 利用可能な施設、空間の有効活用

高齢化が進む中、市民の健康志向の高まりがうかがえ、健康づくりにおけるスポーツへの期待はますます高まっています。

市民アンケート調査では、市民が普段運動やスポーツをしている場所は、「自宅の近くの河川敷、公園・空き地」に次いで「民間のスポーツクラブ」が多くなっており、大学や企業のスポーツ施設や、民間のフィットネスクラブ・スポーツクラブでも、様々なスポーツ・レクリエーション活動が行われていることがうかがえます。

こうした民間・地域のスポーツの場を活用しながら、市民のスポーツ環境の充実を図ることが必要です。

その他、今後今よりもスポーツ観戦をしたいと考えている市民は多く、スポーツを観戦する場の整備や機会の確保も求められます。

- 身近な空間や場所を有効活用し、気軽にスポーツに取り組める環境づくり
- 既存施設の利用環境の改善や充実
- 大学や民間のスポーツ施設との連携による効果的な施設利用

課題2 スポーツ団体・クラブの育成

(1) 総合型地域スポーツクラブの育成

総合型地域スポーツクラブは、地域住民が自主的に運営し、子どもから高齢者まで、様々な人が参加できるクラブとなっており、従来の単一種目を行うクラブとは異なり、様々な種目のスポーツが行われ、各々が、自分の趣向やレベルにあわせたプログラムに参加することができます。こうした、総合型地域スポーツクラブは、地域住民の健康づくり、生きがいづくりを促進し、地域コミュニティの基盤となっていくことが期待されています。

総合型地域スポーツクラブの設立は徐々に進みつつあるものの、市民アンケート調査の結果では、総合型地域スポーツクラブに対する市民の認知度はまだまだ低い状況であり、スポーツクラブや団体への参加を希望している市民も一定数いることから、一層の周知を図り、拡充していく必要があります。

(2) 既存スポーツ団体・クラブの活性化

本市には、市川市体育協会加盟団体をはじめ、対象者やニーズにあった、様々な種目を行う多くのスポーツ団体・クラブが存在しています。しかし、各種イベントや事業などにおいて、これら既存スポーツ団体・クラブと総合型地域スポーツクラブとの連携が十分でない面も見られ、今後も、スポーツ団体・クラブを初めとした地域の団体、取り組みの支援を進めるとともに、連携体制の充実が必要です。

- ・総合型地域スポーツクラブの情報発信・周知
- ・スポーツ団体や地域との連携による活動の活性化や参加の推進

○本市の総合型地域スポーツクラブ ※平成28年度

市川スポーツガーデン国府台	市川スポーツガーデン塩浜	北市川スポーツクラブ
		
卓球／バドミントン／バレーボール／サッカー／テニス／バスケットボール／エアロビクス／ハワイアンフラダンス／太極拳／ランニング教室／チア／健康教室など	フットサル／ソフトバレーボール／卓球／テニス／グラウンドゴルフ／フォークダンス／ピラティス／コアストレッチ／スポーツチャンバラ／ヨガなど	サッカー／ラグビー／テニス／ソフトテニス／フットベースボール／ウォーキング

課題3

スポーツを支える人材の育成・確保

(1) スポーツ指導者の育成と確保

本市には、市民全般、高齢者、障がい者、小中学生など、様々な方を対象としたスポーツ教室があり、多くの指導者が活躍しています。一方で、指導者の高齢化や、市民のニーズの多様化などにより、スポーツ指導者の不足が指摘されています。

市公認スポーツ指導者の育成に努めていますが、市民アンケート調査をみると、市川市公認スポーツ指導者制度やスポーツ推進委員について、十分に周知されているとは言えない状況にあります。

指導者や推進委員の更なる周知を図り、市民の要望に対し適切な指導者の派遣が行われ、各指導者の活躍の場を増やしていくことが必要です。

市民アンケート調査の結果では、スポーツ施設への指導者の配置の充実を求める声もあり、スポーツ指導者には、スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味がわくような指導が期待されていることから、指導力の確保と資質の向上が重要となっています。スポーツを通じた地域の交流やスポーツ団体の活性化を進めるためにも、十分な資質と能力を備えたスポーツ指導者が必要です。

- ・市川市公認スポーツ指導者制度の周知
- ・指導者の活躍の場の確保
- ・指導者の育成によるスポーツに参加するきっかけづくりや団体の活性化

○市川市公認スポーツ指導者制度

平成18年度から、市川市のスポーツ振興と競技力向上及び、生涯スポーツ社会の実現を目指し、指導活動の促進と指導体制を確立するため、「市川市公認スポーツ指導者制度」を制定し、養成講習会を実施しています。毎年20名程度の指導者認定を目指しています。

講習会の流れ	受講時間・期間	主なカリキュラム
カリキュラムの受講 ↓ 検定試験 ↓ 認定	期間：約6ヶ月 受講時間： 集合講習 36時間 自宅講習 21時間	スポーツ指導者の意義と原則 フィットネストレーニング(実技) ジュニア期のスポーツの取組み 高齢者とスポーツ 地域におけるスポーツ振興など

課題4 スポーツ機会の創出

(1) イベント・教室の開催

運動やスポーツには、心身の健康の保持増進や生活習慣病予防などの効果が期待されることから、市民の一人ひとりがライフステージに応じて、主体的・継続的に運動やスポーツを楽しむことが大切です。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることが決定し、市民のスポーツに対する関心が高まることが期待されます。

こうした中、市民アンケート調査をみると、週1回以上スポーツをしたいと考えている人が約7割と、潜在的なスポーツニーズがうかがえる一方で、運動・スポーツに参加しない理由は、「参加するきっかけがないから」が多く、参加するきっかけづくりによって市民のスポーツ実施率が高まっていくことが期待できます。

そのため、市民のニーズの高いウォーキングや筋力トレーニング、水泳などを行える機会の提供が重要です。

また、スポーツを行いたくても行えない人のために、スポーツをすることを促すなど、きっかけづくりや短時間でできる運動の周知などを講じる必要があります。

(2) スポーツプログラムの開発・普及

本市では、市民全般、高齢者、障がい者、小中学生などを対象に、様々なスポーツイベントや教室が実施されています。

きっかけづくりの場となるイベント・教室については、一定の潜在ニーズが見られる中、年齢や趣向など様々な方を対象としたイベントや教室の実施が求められており、ライフステージや多様なニーズに対応した取り組みが必要です。

- ・様々な人に向けたスポーツ・運動の機会創出
- ・スポーツを行っていない人に向けた参加するきっかけづくり
- ・スポーツの意識・関心の向上

課題5 スポーツ情報の収集・提供

(1) スポーツ情報の集約、充実

市民一人ひとりのスポーツへの関心や運動能力に違いがあることから、主体的、継続的に楽しめるスポーツを推進していくため、健康づくりや初心者向けのスポーツ教室に関する幅広い情報提供が必要です。

こうした中、近年の情報化社会の進展により、市民の情報収集の手段も多様化しています。

市民アンケート調査では、様々な種目のスポーツ教室やスポーツイベントについて情報を知らない人が4割となっており、スポーツに関する情報の一元化や集約を行いながら、情報発信の更なる充実が求められます。

(2) スポーツや健康の相談体制の構築

情報化が進んだ昨今、スポーツや健康づくりについても、情報が社会に氾濫し、情報を入手しやすくなった反面、情報の受け手である市民が、正しい情報を適切に選別し活用することが困難な状況も見受けられます。

市民アンケート調査では、スポーツや健康づくりについて相談したいこととして、健康のために効果的な運動方法やスポーツ活動をできる場所など、スポーツや健康づくりに関する相談への市民の多様なニーズが見られ、スポーツや健康の相談体制の充実を図っていくことも求められます。

- ・ 様々な人に向けたわかりやすいスポーツ情報の発信・充実
- ・ 健康づくりに関するスポーツの相談体制の充実

課題6 スポーツ競技力の強化

(1) 競技力強化体制の構築

本市では、学校、企業や、地域スポーツクラブまた各競技団体を総括する体育協会を中心に、競技力の向上を目指し、競技者の育成・強化に努めています。

しかし、本市の競技スポーツの水準は県民体育大会や中学・高校の県大会等の成績を見ると、一部の競技を除き成果をあげているとは言えません。人口規模からも優秀な成績を常に維持できるように、市体育協会、種目別競技団体等と連携して強化体制を確立し競技水準の向上を推進することが求められます。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けてスポーツへの関心が高まることを活かし、学校、企業や、地域スポーツクラブまた各競技団体を総括する体育協会と連携し、小中学生の育成、選手発掘・競技力の向上に努めていくことが必要です。

- 競技力向上にむけた各競技団体との連携
- 小中学生の競技力育成や選手発掘